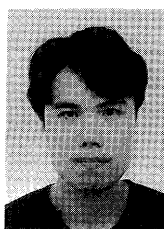


■ GERMINATION

若手のページ

新しい仕事・新しい環境

神谷典穂



私が生まれ育った九州を離れ、助手という仕事に就いてから約2年が経過しようとしています。目まぐるしく過ぎていったこの2年を振り返りつつ、何か学生の皆さんの参考になるような点が少しでもあればと思い、ペンを取りました。“若い人と比較的年齢の近い若い人”からの1メッセージということで、軽く読み流して頂けたらと思います。

福岡から東京へ

私は九州大学の分子システム工学専攻(旧合成化学科)で学位を取得後、縁あって東京大学化学生命工学専攻で助手として働く機会を得ました。生まれてこのかた福岡から出たことのなかった田舎ものの私は、何しろ福岡に住むにも仕事するにも1番!と思っていたのですが、それ以上に自分の可能性を試したいという欲求と、若いうちの苦勞は買ってでもしろという先達の言葉に後押しされ、東京進出に踏み切ったわけです。もう少し付け加えますと、雇って頂ける研究室の主要研究分野は遺伝子工学を駆使したバイオテクノロジー、自分にとってはほとんど未知の世界だったことも決め手になりました。恥ずかしながら、学位取得後、自分が本当にやりたいことが今ひとつ見えていなかった私は、今後この世界で仕事をしていくためにも、自分のベースを広げる必要性を感じていたからです。このとき私は、学位取得・結婚・就職という人生の転機3本立て(ある先生に言わせると三重苦の始まりらしい)をほぼ1ヶ月のうちに経験し、新しい仕事・職場に対する準備もそこそこに東大に飛び込みました。

学生から助手へ

どんな職種であっても、新しい仕事に慣れるのは一仕事だと思います。新しい環境に身を置くというのは、なかなかストレスが溜まるものです。私も例に漏れず、往復2時間の不慣れな電車通勤と極度の緊張感により、4月の1ヶ月で5kgやせました(妻はスリムになった私に満足げでした)。全く未知の分野に飛び込むことに関

しては、一体どんなことを学べるのだろうという期待感が大きかったので、研究者としての私はさほどプレッシャーは感じませんでした。しかし、助手=指導者・教育者という立場になることを考えると、自分に何が教えられるだろうという不安で一杯だったのは事実です。実際、同期配属の新4年生と一緒に、当研究室恒例のインシヤルトレーニングを受ける私の姿は、学生さんにとってはとても助手には映らなかったでしょう。正直なところ、こんな助手でいいのかと随分悩みました。そんなとき、研究室のスタッフの方から、「研究内容だけではなくて、研究に取り組む姿勢や結果の解釈の仕方など、教えられることはたくさんあるのではないか?」という温かいアドバイスを頂き、随分と楽になりました。しょせん自分もまだまだひよっこなんだから、分からないことは学生さんと一緒に学んでいこうと考え直すことができたわけです。また、自分がこれまで真剣に取り組んできたことについては確固たる自信を持つべきだ、ということも教えられたような気がします。とは言えまだまだ勉強不足、現在も四苦八苦しながら経験を積んでいるといったところで、当研究室の学生さんに十分還元できているとは言い難いのですが。

おわりに

さて、つらつらと思うままに書いてしまいましたが、学生の皆さんも、仮に次の就職先が全く異分野だからといって尻込みされることはないと思います。私の場合、何かが自分にまだ足りないという漠然とした思いに後押しされた格好ですが、こんな私でも何とかやっています。本当に自分がやりたい仕事が見つかったのであれば、なおさらです。チャンスがあれば、是非思い切って飛び込んでみてはいかがでしょうか。但し、環境を変えたからといって自分の実力は変わりません。むしろ自分の本当の力が浮き彫りにされます。そのとき、へこまずに自分の能力と可能性を信じて、どれだけがむしゃらに頑張れるかが大事なことなのではないかと私自身は考えています。新しい環境に身を置くと、新しいアイデアと知的好奇心に満ちた世界に触れることができ、これまでの自分の研究・考え方について見直しを迫られる場面に数多く出くわします。が、これはまさに次につながる貴重なステップだと思います。偉そうなことを書いている私ですが、ユニークで夢のある仕事を求めて、未だに暗中模索の毎日です。

著者紹介 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻(助手)

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 Tel. 03-5841-7356 Fax. 03-5841-7279 E-mail: noriho@bio.t.u-tokyo.ac.jp